

# 令和元年度後期アクションプラン構成事業一覧

## 施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～子どものスポーツ～

事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
<b>基本方向 1 子どもの健康な身体づくりと体力・運動能力向上の推進</b>				
1	基本的な生活習慣定着促進事業	教育企画室	30,072	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎっ子ルルブルフォーラムの開催(優良活動団体・ポスターコンクール入賞者の表彰, 講演会等)</li> <li>・ルルブル通信の発行(3回)</li> <li>・ルルブル普及促進紙芝居演劇の上演(20回)</li> <li>・ルルブル親子スポーツフェスタ(155人参加)</li> <li>・ルルブルスポーツ教室(2日間計145人参加)</li> <li>・ルルブルロックンロール教室(40回)</li> <li>・ルルブル・エコチャレンジ事業の実施(23,294人参加(認定証送付人数))</li> <li>・ルルブル普及啓発パンフレットの増刷・配布</li> <li>・スマートフォンの使用に関する注意喚起のパンフレットの印刷・配布</li> <li>・企業等と連携した普及啓発実践事業の実施(仙台うみの杜水族館と連携したルルブルアンバサダーの起用)</li> <li>・マスメディア等を活用した普及啓発(テレビCMの放送, 子育て情報誌への記事掲載)</li> <li>・子育て世代を対象にしたイベントへのブース出展</li> </ul>
2	はやね・はやおき・あさごはん推奨運動	教育企画室	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援団2019へのブース出展</li> <li>・早寝・早起き・朝ごはん実行委員会in宮城との連携</li> <li>・庁内・知事部局(主に保健福祉部)との連携</li> </ul>
3	「学ぶ土台づくり」普及啓発事業	教育企画室	2,919	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学ぶ土台づくり」の周知・進行管理等</li> <li>みやぎ出前講座(年2回)</li> <li>「学ぶ土台づくり」便り(年2回)</li> <li>幼児教育実態調査・アンケート(年1回)</li> <li>・「学ぶ土台づくり」推進連絡会議(年1回)</li> <li>・保幼小接続期カリキュラム連絡会議(年2回)</li> <li>・親になるための教育推進事業(17校)</li> <li>・「学ぶ土台づくり」研修会(年2回)</li> <li>(参加者数:①127人・②25人)</li> <li>・幼児教育アドバイザー派遣事業(7人委嘱)</li> <li>(派遣回数:10か所・延べ19回)</li> <li>・「学ぶ土台づくり」市町村支援モデル事業(事業委託:塩竈市・加美町)</li> <li>・幼児教育推進体制構築検討会議(年4回)</li> </ul> <p>平成30年度に作成した啓発資料を活用し, 研修会等において保幼小接続期カリキュラムの実践を奨励するなど, 幼児教育の充実に向けた取組を継続して実施したほか, 幼児教育をさらに推進するための体制として, 「幼児教育センター機能」の構築に向けた検討を行い, 基本的な在り方を整理した。</p>
4	メタボリックシンドローム対策戦略事業	健康推進課	1,331	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボ予防対策の推進</li> <li>地域での関係機関の連携を図り, 全ライフステージを対象としたメタボ予防の普及啓発を行う。(県内7保健所実施)</li> <li>保健指導等人材育成研修会の開催(年2回, 延133人)</li> <li>ホームページ等による情報提供</li> </ul>
5	スマートみやぎプロジェクト	健康推進課	12,039	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートみやぎ健民会議を核とした県民運動の推進(619団体, R2.3月末現在)</li> <li>・企業等への健康経営の概念の普及(年2回(7月, 2月)開催)</li> <li>・みやぎヘルスサテライトステーション拡大事業</li> <li>・健康情報発信窓口等の設置(80施設, R2.3月末現在)</li> <li>・子どもの健康なからだづくりの推進</li> </ul>
6	子どもの健康を育む総合食育推進事業	スポーツ健康課	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食研究協議会及び食に関する指導推進研修会は, 予定通り実施し, 栄養教諭・学校栄養職員, 調理従事者等へ学校給食衛生管理基準の徹底や地場産物活用の促進について講演を行った。その結果, 令和元年度の学校給食における地場産野菜の利用品目数の割合は29.2%(前年度比+1%), となり, 活用促進の一助となった。</li> <li>・放射能サンプル測定の結果や学校給食に関わる内容をホームページで情報発信し, 食育の推進を図った。</li> </ul>
7	みやぎの子ども体力・運動能力充実プロジェクト	スポーツ健康課	1,165	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議や講習会等を通して, 宮城県の児童生徒の体力・運動能力の現状を確認するとともに, 体力・運動能力向上の効果的な取組について, 具体的に共有することができた。</li> <li>・体力・運動能力調査報告書では, 男女別・年齢別の各種目の目標値の設定ができるような指標を設けた。</li> <li>・Webなわ跳び大会参加校は, 体力・運動能力調査結果において, 県平均を上回るという成果が見られた。</li> </ul>
8	広域スポーツセンター事業	スポーツ健康課	7,936	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アシスタントマネージャー養成講習会(受講者13名)</li> <li>・スポーツリーダー養成講習会(受講者55名)</li> </ul>

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
9	体力・地域スポーツ力向上推進事業	スポーツ健康課	児童生徒の体力や地域スポーツ力向上に意欲のある市町村及びスポーツ関係団体を対象に、大学や民間企業と連携して課題解決に取り組む優れた事業提案をモデル事業として採択し、実施する。	5,167	・各市町において、大学や民間企業と連携した実践が積極的に行われ、体力向上や部活動指導の面において、成果が見られた。「体を動かす遊びやスポーツが好き」と回答する児童の割合の増加や体力・運動能力調査結果の向上が見られた。
10	長なわ跳び大会 短なわ跳び大会 (webなわ跳び広場)	スポーツ健康課	県内全ての児童がウェブ上で、いつでも何度でもチャレンジできる「長なわ跳び大会」及び「短なわ跳び大会」を開催するもの。	77	・前期長なわ跳び大会に24校(91チーム)、短なわ跳び大会に8校(のべ846人)が参加。後期短なわ跳び大会に15校(のべ1225人)、長なわ跳び大会に135校(885チーム)が参加した。参加校は、体力・運動能力調査において、県平均を上回る結果を残した。
11	子どものスポーツ	宮城県スポーツ協会	子どもがより一層スポーツに取り組むことができるよう、子どもを対象とした各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催する。		・剣道寒稽古会 1回(552人) ・グランディ・21スポーツ大会 1回(224人) ・各種スポーツ教室・フィットネス等開催事業 通年(74,175人) ・地方青少年なぎなた錬成大会 1回(72人) ・ミズノ体力向上事業 7回(180人) ・10,000人寒稽古 1回(401人)
12	幼児加入のための条件整備	宮城県スポーツ協会	・幼児受け入れに伴う課題の検討 ・幼児の受け入れ体制づくりと関係団体との連携促進 ・幼児およびその保護者を対象にした運動遊びのプログラムの研修		・市町村スポーツ少年団対象としたアクティブ・チャイルド・プログラム普及促進研修会を実施。39名の参加者による講義・実技研修を行った。

## 基本方向 2 子どもの遊ぶ(身体活動)機会の創出

13	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業	スポーツ健康課	・県民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起する「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を7つの地区ごとに開催する。	1,933	・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。 ・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。
14	基本的な生活習慣定着促進事業(再掲)	教育企画室	・子供の健やかな成長を支えるため、みやぎっ子ルルブル推進会議の設立趣旨に賛同する企業・団体と連携し、社会総がかりで、子供の基本的な生活習慣の定着を図る。	30,072	・みやぎっ子ルルブルフォーラムの開催(優良活動団体・ポスターコンクール入賞者の表彰、講演会等) ・ルルブル通信の発行(3回) ・ルルブル普及促進紙芝居演劇の上演(20回) ・ルルブル親子スポーツフェスタ(155人参加) ・ルルブルスポーツ教室(2日間計145人参加) ・ルルブルロックンロール教室(40回) ・ルルブル・エコチャレンジ事業の実施(23,294人参加(認定証送付人数)) ・ルルブル普及啓発パンフレットの増刷・配布 ・スマートフォンの使用に関する注意喚起のパンフレットの印刷・配布 ・企業等と連携した普及啓発実践事業の実施(仙台うみの杜水族館と連携したルルブルアンバサダーの起用) ・マスメディア等を活用した普及啓発(テレビCMの放送、子育て情報誌への記事掲載) ・子育て世代を対象にしたイベントへのブース出展
15	「学ぶ土台づくり」普及啓発事業(再掲)	教育企画室	・幼児期を、生涯にわたる人格形成の基礎を築く「学ぶ土台づくり」の時期と捉え、親子間の愛着形成の促進、基本的な生活習慣の確立、豊かな体験活動による学びの促進及び幼児教育の充実のための環境づくりの4つの目標の下、家庭、地域社会、教育現場、行政が一体となって幼児教育の充実に向けた各種取組を推進する。	2,919	・「学ぶ土台づくり」の周知・進行管理等 みやぎ出前講座(年2回) 「学ぶ土台づくり」便り(年2回) 幼児教育実態調査・アンケート(年1回) ・「学ぶ土台づくり」推進連絡会議(年1回) ・保幼小接続期カリキュラム連絡会議(年2回) ・親になるための教育推進事業(17校) ・「学ぶ土台づくり」研修会(年2回) (参加者数:①127人・②25人) ・幼児教育アドバイザー派遣事業(7人委嘱) (派遣回数:10か所・延べ19回) ・「学ぶ土台づくり」市町村支援モデル事業 (事業委託:塩竈市・加美町) ・幼児教育推進体制構築検討会議(年4回)  平成30年度に作成した啓発資料を活用し、研修会等において保幼小接続期カリキュラムの実践を奨励するなど、幼児教育の充実に向けた取組を継続して実施したほか、幼児教育をさらに推進するための体制として、「幼児教育センター機能」の構築に向けた検討を行い、基本的な在り方を整理した。
16	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。
17	地域学校協働活動推進事業(放課後子ども教室)	生涯学習課	・県内の小学校区において、全ての児童を対象とし、放課後や週末等に子供たちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々(ボランティア活動)の参画を得て、子供たちの学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動を実施することにより、子供たちが地域の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進する。	101,569	・22市町村78教室で放課後子供教室が開催され、のべ83,203人の子供が参加し、のべ16,101人のスタッフが携わった。地域のボランティアの方々に見守られながら、安心・安全な居場所づくりと、運動を含む豊かな体験活動や交流活動が各教室で行われた。

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
18	子どものスポーツ(再掲)	宮城県スポーツ協会	子どもがより一層スポーツに取り組むことができるよう、子どもを対象とした各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道寒稽古会 1回(552人)</li> <li>・グランディ・21スポーツ大会 1回(224人)</li> <li>・各種スポーツ教室・フィットネス等開催事業 通年(74,175人)</li> <li>・地方青少年なぎなた錬成大会 1回(72人)</li> <li>・ミズノ体力向上事業 7回(180人)</li> <li>・10,000人寒稽古 1回(401人)</li> </ul>
19	施設の利用促進	宮城県スポーツ協会	気軽に利用できる身近な施設としてPRに努め、施設の利用促進を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設無料開放事業 1回(6,936人)</li> <li>・市町村対抗リレーマラソン大会 台風の影響により中止</li> <li>・みやぎ県民サッカーの日 1回(1,787人)</li> <li>・施設開放事業 1回 新型コロナウイルスの影響で中止</li> <li>・施設活用事業 通年(3,928人)</li> <li>・武道館まつり 1回(3,415人)</li> <li>・クライミングウォール講習会 1回 悪天候のため中止</li> </ul>
20	幼児加入のための条件整備(再掲)	宮城県スポーツ協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児受け入れに伴う課題の検討</li> <li>・幼児の受け入れ体制づくりと関係団体との連携促進</li> <li>・幼児およびその保護者を対象にした運動遊びのプログラムの研修</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村スポーツ少年団対象としたアクティブ・チャイルド・プログラム普及促進研修会を実施。39名の参加者による講義・実技研修を行った。</li> </ul>
21	<各種交流会開催> 宮城県スポーツ少年大会(毎年開催) 市・地区交流会	宮城県スポーツ協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活をしながら、スポーツ活動を中心に、学習活動、野外活動、交歓交流活動等を行うことで、青少年の心と体を育てる</li> <li>・子どもたちとともにスポーツ少年大会の企画運営を行うことを通して、子どもたちが様々なスポーツに親しむ場を提供する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8/3～8/5の日程で花山青少年自然の家を会場に開催し、県内各地から38名の参加を得て、互いの交流を図るとともに、ジュニアリーダーとしての育成を図った。</li> </ul>
22	団員を対象とした国際交流事業	宮城県スポーツ協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツや中国への派遣事業を通して国際的な視野を持った青少年を育成する</li> <li>・ドイツや中国の青少年とスポーツ活動を中心とした交流を通して、海外のスポーツ事情について学ぶ</li> <li>・ドイツや中国でのディスカッションやホームステイを通して海外の文化について学ぶ</li> <li>・ドイツ団や中国団の受け入れを通して海外のスポーツ事情や文化について学ぶ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/23～8/8の日程で、指導者1名メンバー8名、合計9名のドイツの青少年を大崎地区を中心として受け入れ、涌谷町での砂金取りや小牛田農林高校での相撲体験などを行い、宮城のスポーツ・文化を紹介するとともに団員との交流を行った。</li> </ul>
23	組織整備強化事業	宮城県スポーツ協会	各市・地区協議会、種目別協議会に対する助成金の交付、交流事業・研修事業の実施、本部との情報共有の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内8地区で地区団員交流会及び指導者研修会などの地区主管事業を行った。</li> <li>・12種目、20の種目別交流大会を県内各地で開催し、延べ1,072チーム・個人種目3,008名の参加があった。</li> </ul>
24	プロスポーツ連携事業	宮城県スポーツ協会	県民が競技の楽しさをより深く体験することができるよう、プロスポーツ団体と連携し、プロスポーツ選手によるスポーツ教室を開催する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台89ersバスケットボール教室 1回(82人)</li> <li>・リガール仙台バレーボール教室 1回(58人)</li> </ul>
25	障害児運動・あそびの広場事業	宮城県障害者スポーツ協会	障害児がのびのびと身体を動かせる機会や場を提供し、障害児の健康増進、運動あそび実践のきっかけ作りをサポートすることを目的にレクリエーション活動を中心としたあそびの広場を開催。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月から3月に計9回開催し、延べ580名の参加があった。3月開催予定回はコロナウイルス感染症拡大の為に中止とした。</li> </ul>

### 基本方向 3 子どもがスポーツを「みる」「支える」機会の創出

26	広域スポーツセンター事業 (生涯スポーツ担当者会議)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツ担当者会を2回開催した。</li> <li>・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。</li> </ul>
27	オリンピック・パラリンピック推進事業	オリンピック・パラリンピック大会推進課	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツ振興、観光客の増加、インバウンドの拡大、県産品のPR等をもとより、震災からの復興状況を世界に発信するまたとない機会となることから、庁内各部署はもちろんのこと、官民一体となってオール宮城で関連施策に取り組むもの。	342,121	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火リレーについては、実行委員会においてルートの検討をすすめ、復興五輪である本大会を体現するルートとして、津波被害を受けた施設や場所、震災の象徴的な場所を通過するルートを決定し公表した。また、令和元年7月から聖火ランナーを公募し、実行委員会において4つの選定方針のもと選定後、令和元年12月に公表した。</li> <li>・大会に向けた取組みとして、楽天イーグルスなどの在仙プロスポーツや大会スポンサー、競技団体と連携したイベントを実施したほか、動画、ポスターなどの制作、「県政だより」での特集記事の連載、仙台市中心部でPRフラッグを掲出するなど、気運醸成を図った。</li> <li>・ホストタウン及び復興「ありがとう」ホストタウンに関連し、事前キャンプ誘致に関するアドバイザーの派遣や、海外競技団体に対するPR活動などを実施した。</li> <li>・都市ボランティアについて、応募状況を踏まえ計画を見直し、多くが活動できる枠組みに変更した。また、共通研修の実施等、ボランティアの育成に着手するとともに約1700名を対象に活動場所などの配置を行った。</li> </ul>
28	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業 (再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。</li> </ul>
29	施設の利用促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	気軽に利用できる身近な施設としてPRに努め、施設の利用促進を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設無料開放事業 1回(6,936人)</li> <li>・市町村対抗リレーマラソン大会 台風の影響により中止</li> <li>・みやぎ県民サッカーの日 1回(1,787人)</li> <li>・施設開放事業 1回 新型コロナウイルスの影響で中止</li> <li>・施設活用事業 通年(3,928人)</li> <li>・武道館まつり 1回(3,415人)</li> <li>・クライミングウォール講習会 1回 悪天候のため中止</li> </ul>

事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
-----	----------	------	-------------------	----------------

### 基本方向 4 学校体育の充実

30	みやぎの子ども体力・運動能力充実プロジェクト(再掲)	スポーツ健康課	・子供の体力・運動能力を向上させるため、子供の体力・運動能力の実態を調査、分析し、向上策を検討する。 ・小・中学校教員に対して、体力向上の意義を伝え、児童生徒の体力向上に向けた教員の意識の変容を促すとともに、各学校における日常的な体力向上に向けた取組のために講習会を開催する。	1,165	・各種会議や講習会等を通して、宮城県の児童生徒の体力・運動能力の現状を確認するとともに、体力・運動能力向上の効果的な取組について、具体的に共有することができた。 ・体力・運動能力調査報告書では、男女別・年齢別の各種目の目標値の設定ができるような指標を設けた。 ・Webなわ跳び大会参加校は、体力・運動能力調査結果において、県平均を上回るという成果が見られた。
31	学校体育研修派遣費	スポーツ健康課	文部科学省等が主催する研修会等に学校体育担当指導主事及び教職員を派遣し、学校体育の充実を図る。 ・指導者養成研修と受講者の伝達講習会を開催する。	361	・各学校における体育科・保健体育科の教育課程や学習指導、研修の企画等を行う際に必要な知識や技能等を修得する上で得るものが多かった。
32	全国特別支援学校体育大会参加事業	スポーツ健康課	・全国特別支援学校体育大会への参加に要する経費の一部を補助し、生涯体育・スポーツの素地となる体育活動の一層の充実と発展を図る。	292	・全国聾学校陸上競技大会及び卓球大会への参加費補助(22名)

### 基本方向 5 運動部活動の充実

33	体育大会開催費補助	スポーツ健康課	中・高等学校の体育大会の開催に要する経費の一部を負担し、中学校、高等学校における体育・スポーツの充実と振興を図る。	840	・中学・高等学校体育大会開催に対する共催負担金、(本県開催種目)@700千円×12種目(中体連2, 高体連10)
34	全国高等学校総合体育大会参加事業 全国高等学校定時制通信制体育大会参加事業	スポーツ健康課	全国高等学校体育大会・全国高等学校定時制通信制体育大会への参加に要する経費の一部を補助し、高等学校運動部の充実と振興を図る。	14,320	・全国高等学校総合体育大会の参加費補助(876人)、開会式出席旅費
35	運動部活動地域連携促進事業	スポーツ健康課	・地域の優れたスポーツ指導者を「外部指導者」として活用し、運動部活動の充実と地域との連携を促進する。	9,565	・外部指導者171人を派遣し、地域との連携を深め、運動部活動の充実を図った。令和2年度で本事業が終了予定のため、全ての各市町村委員会を回り、情報共有を図った。
36	部活動の在り方検討会議	スポーツ健康課	本県の部活動に関する様々な課題と目指すべき姿を検討するため、教育関係者及びスポーツ関係者を構成員とした検討会議を開催する。	6	・部活動の在り方検討会議ワーキンググループを12/24に開催。 6 部活動の在り方検討会議を2/4に開催した。運動部、文化部それぞれの課題について情報共有し、部活動ガイドラインを遵守することの大切さを再確認した。
37	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ指導者育成業務) ・生涯スポーツの指導者を対象に医科学・スポーツ障害予防の観点を含む研修会を開催する。	7,936	・アシスタントマネージャー養成講習会(受講者13名) ・スポーツリーダー養成講習会(受講者55名)
38	運動部リーダー養成講座	宮城県高等学校体育連盟	運動部リーダー養成のため、メンタルトレーニングの講演・講義・演習、コンディショニングの実技並びに体験発表等を通して個々の資質向上を図り、もって各校運動部の充実、普及、競技力向上を目指す。		・ボトムアップパーソナルズ協会の畑氏を講演・実技の講師として招聘し、充実したものとなった。その後の生徒によるワークショップやグループディスカッションの実践にも大きく波及効果が見られた。参加者アンケートでは90%(H30年度比+3%)が「おおいに役に立つ」と回答し、参加者のほぼ全員が各校で内容を伝達したいと答えており、参加者が相互に時間を共有し、例年になく大きな効果が得られた。
39	高体連スポーツ振興補助金事業	宮城県高等学校体育連盟	全国高等学校体育大会等への参加に要する経費の一部を参加校に対し、予算の範囲内で補助し、高校スポーツの振興を図る。		・インターハイ主会期(水泳含)には、指導者55名、選手578名に対し補助金を交付した。優勝5つを含め17専門部(前年度比+3)49名(前年度比-10)が上位入賞を果たしたが、入賞が見込まれる競技が台風で中止になったことも影響し、前年度と比較し入賞数は減となった。
40	高体連競技力向上対策事業補助金強化事業	宮城県高等学校体育連盟	県内高等学校指導者・選手が、県代表として全国高等学校総合体育大会等に出場するための強化事業として、練習会、合宿及び遠征等を実施して強化を図る。		・全国高校総体においては、前年度より微減ながらも一定数の入賞者を輩出し、全国選抜大会・選手権大会においても、コンスタントに上位入賞者を輩出するなど成果が見られた。
41	高体連運動部活動指導者研修協議会	宮城県高等学校体育連盟	部活動の在り方、競技力の向上等諸問題について研究発表及び協議を行い、指導者の資質の向上を図り、効果的な選手の育成と優れた指導者の育成に寄与する。		・名古屋大学大学院の内田准教授を講師として招き、部活動の在り方について講演をいただいた。今年度は101名の参加があり、研究協議等においても活発な協議が行われた。
42	高体連運動部活動指導者研修会	宮城県高等学校体育連盟	コーチング方法論、メンタルマネジメント等に関する研修を行うことにより、継続的に指導者の育成を図り、選手の競技力向上と運動部指導者の資質の向上に寄与する。		・今年度より県教委・県高体連に加え県スポーツ協会が主催者として加わり、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格更新講習を兼ねて実施した。各高等学校運動部活動指導者及び外部指導者を対象として、コーチングに関する講習や部活動の在り方についての研究協議等を実施し、指導者の資質向上が図れた。
43	中体連競技力向上対策事業	宮城県中学校体育連盟	競技力の向上と普及を目指して、遠征、練習会等を行う。また、強化指定選手へのポイントを絞った強化事業を推進する。		・各競技専門部ごとに競技力向上を目的として事業を実施した。競技によっては選抜選手が交流をすることで、モチベーションやスキルが向上し、レベルアップを図ることができた。

### 施策の柱 I 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～働く世代～

事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
-----	----------	------	-------------------	----------------

### 基本方向 1 日常生活における身体活動の奨励

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
1	メタボリックシンドローム対策戦略事業(再掲)	健康推進課	第2次みやぎ21健康プランに基づき、メタボリックシンドロームの改善を図るため、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「たばこ」の3つを重点分野として、生活習慣の改善に向けた普及啓発等を行う。	1,331	・メタボ予防対策の推進 地域での関係機関の連携を図り、全ライフステージを対象としたメタボ予防の普及啓発を行う。(県内7保健所実施) ・保健指導等人材育成研修会の開催(年2回, 延133人) ・ホームページ等による情報提供
2	スマートみやぎプロジェクト(再掲)	健康推進課	スマートみやぎ健民会議(県民運度)を基盤とし、県民に対して多方面からの効果的な情報伝達や市町村、民間企業等との協力により、日常的に健康づくりが実践できる社会環境の整備を行う。	12,039	・スマートみやぎ健民会議を核とした県民運動の推進(619団体, R2.3月末現在) ・企業等への健康経営の概念の普及(年2回(7月, 2月)開催) ・みやぎヘルスサテライトステーション拡大事業 ・健康情報発信窓口等の設置(80施設, R2.3月末現在) ・子どもの健康なからだづくりの推進
3	働く人の健康づくりプラス推進事業	健康推進課	・働き盛り世代である青年期・壮年期を主な対象とし、健康づくりを気軽に取り組める環境の整備を行う。	12,018	・ウォーキングプラス15推進事業 みやぎウォーキングアプリを活用した運動環境の整備(約6,600人, R2.3月末現在) ・ベジプラス100&塩eco推進事業 スーパー等と連携した食環境の整備(320店舗)
4	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
5	働く世代のスポーツ	宮城県スポーツ協会	働く世代がより一層スポーツに取り組むことができるよう、働く世代を対象としたフィットネススクールの開催やスポーツ大会を支援する。		・宮城ヘルシー支援事業 1回(7ブロック) ・各種スポーツ教室・フィットネス等開催事業 通年(74,175人) ・ミズノ体力向上事業 1回及び通年(783人) ・新春寒げい古 1回(50人) ・天空大河 通年(410人) ・中国気功教室 通年(414人) ・なぎなた教室 1回(64人)
6	施設の利用促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	気軽に利用できる身近な施設としてPRに努め、施設の利用促進を図る。		・施設無料開放事業 1回(6,936人) ・市町村対抗リレーマラソン大会 台風の影響により中止 ・みやぎ県民サッカーの日 1回(1,787人) ・施設開放事業 1回 新型コロナウイルスの影響で中止 ・施設活用事業 通年(3,928人) ・武道館まつり 1回(3,415人) ・クライミングウォール講習会 1回 悪天候のため中止

## 基本方向 2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

7	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業(再掲)	スポーツ健康課	・県民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起する「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を7つの地区ごとに開催する。	1,933	・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。 ・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。
8	青少年教育活動事業	生涯学習課	・青年の文化活動及びスポーツ活動を推進するため地方青年文化祭、県青年文化祭、県青年体育大会を開催する。 ・青年団等の資質向上や活動の一層の充実を図るため、一般財団法人宮城県青年会館が青少年の健全育成を図る目的で実施する主催事業に対して補助金を交付する。	1,296	・県青年体育大会 ・期日: 9月1日(日) ・会場: 石巻市遊楽館他 ・参加者: 各地区青年団代表 ・種目: バasketボール, 軟式野球, 卓球, 柔道 ・参加者数: 350名(選手等220名, 一般来場者130名) ・県内青年が一堂に介し、スポーツを通じての交流の推進を図ることができた。
9	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ活動指導者研修会)	スポーツ健康課	・地域におけるスポーツ活動の指導者を対象に、広く生涯スポーツの振興に必要な知識・技能及び具体的な施策展開方法等について研修する。	216	・地域におけるスポーツ活動指導者67名が参加した。タッチラグビーとポッチャの実技研修を中心に研修を深めた。
10	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ設立・育成業務) 総合型クラブ設立に向けた市町村や既存の総合型クラブ等に対し、指導・助言に当たる。	7,936	・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。 ・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。
11	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
12	体力・地域スポーツ力向上推進事業	スポーツ健康課	児童生徒の体力や地域スポーツ力向上に意欲のある市町村及びスポーツ関係団体を対象に、大学や民間企業と連携して課題解決に取り組む優れた事業提案をモデル事業として採択し、実施する。	5,167	・各市町において、大学や民間企業と連携した実践が積極的に行われ、体力向上や部活動指導の面において、成果が見られた。「体を動かす遊びやスポーツが好き」と回答する児童の割合の増加や体力・運動能力調査結果の向上が見られた。

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
13	オリンピック・パラリンピック推進事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツ振興、観光客の増加、インバウンドの拡大、県産品のPR等のもと、震災からの復興状況を世界に発信するまたとない機会となることから、庁内各部署はもちろんのこと、官民一体となってオール宮城で関連施策に取り組むもの。	342,121	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火リレーについては、実行委員会においてルートの検討をすすめ、復興五輪である本大会を体現するルートとして、津波被害を受けた施設や場所、震災の象徴的な場所を通過するルートを決定し公表した。また、令和元年7月から聖火ランナーを公募し、実行委員会において4つの選定方針のもと選定後、令和元年12月に公表した。</li> <li>・大会に向けた取組みとして、楽天イーグルスなどの在仙プロスポーツや大会スポンサー、競技団体と連携したイベントを実施したほか、動画、ポスターなどの制作、「県政だより」での特集記事の連載、仙台市中心部でPRフラッグを掲出するなど、気運醸成を図った。</li> <li>・ホストタウン及び復興「ありがとう」ホストタウンに関連し、事前キャンプ誘致に関するアドバイザーの派遣や、海外競技団体に対するPR活動などを実施した。</li> <li>・都市ボランティアについて、応募状況を踏まえ計画を見直し、多くが活動できる枠組みに変更した。また、共通研修の実施等、ボランティアの育成に着手するとともに約1700名を対象に活動場所などの配置を行った。</li> </ul>
14	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業 (再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。</li> </ul>
15	障害スポーツ・レクリエーション事業 (レクリエーション教室開催事業、障害者スポーツ教室等開催事業、各種障害者スポーツ大会の開催)	障害福祉課	障害者スポーツ教室を開催するなどして、障害者の特性に応じたスポーツ技術のルール、心構え等の講習・実技を通じ、スポーツに親しむ機会を設ける。	10,169	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県障害者ボウリング大会(計98人参加)</li> <li>・宮城県パークゴルフ大会(計89人参加)</li> <li>・各種スポーツ教室(9種目延べ130人)</li> <li>・団体競技普及推進事業(4種目延べ448人)</li> <li>・全国障害者スポーツ大会団体競技予選会(2種目10チーム)</li> <li>・総合型地域スポーツクラブとの連携開催(延べ847人)</li> </ul>
16	家庭バレーボール県大会	宮城県スポーツ推進委員協議会	生涯スポーツの一環として誰でも手軽にできるスポーツ、家庭バレーボールの振興と健康の保持増進および体力づくりを図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回家庭バレーボール県大会開催 参加チーム数:29チーム</li> </ul>
17	総合型地域スポーツクラブの育成・支援	宮城県スポーツ協会	「総合型地域スポーツクラブ」の普及に向けた取り組みを支援するため、市町村体育・スポーツ協会が地域で大会、スポーツ教室、スポーツ研修会等を企画運営し、実施する事業に要する経費を助成する。また、県より、みやぎ広域スポーツセンターの運営委託業務を受託し、設立・運営の助言を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域スポーツ活動の普及推進事業を実施する16市町の体育・スポーツ協会に対し助成金を補助し、生涯スポーツ活動を推進した。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの設立及び運営に関する支援を、延べ36市町村101クラブに行った。</li> <li>・設立準備委員会を設置した南三陸町に対して設立準備補助金を交付した。</li> </ul>
18	スポーツ指導者の養成	宮城県スポーツ協会	各種スポーツ指導者の指導力向上のため、日本スポーツ協会公認指導者の資格更新義務講習会等を開催する。また、幼児や障害者のスポーツ指導者の養成を行う講習会を開催する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認スポーツ指導者養成講習会事業(山岳) 1団体実施4名修了</li> <li>・スポーツ指導者研修会 6月・1月2回実施 計212名参加</li> <li>・スポーツ指導者協議会事業(東北・全国会議派遣、役員会実施)</li> </ul>
19	施設の利用促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	気軽に利用できる身近な施設としてPRIに努め、施設の利用促進を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設無料開放事業 1回(6,936人)</li> <li>・市町村対抗リレーマラソン大会 台風の影響により中止</li> <li>・みやぎ県民サッカーの日 1回(1,787人)</li> <li>・施設開放事業 1回 新型コロナウイルスの影響で中止</li> <li>・施設活用事業 通年(3,928人)</li> <li>・武道館まつり 1回(3,415人)</li> <li>・クライミングウォール講習会 1回 悪天候のため中止</li> </ul>
20	地域スポーツ団体の支援	宮城県スポーツ協会	市町村体育・スポーツ協会や県内の公共体育施設管理団体に対する情報提供や研修会等を行うほか、グランディ・21ボランティアへの支援等を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設ネットワーク事業 通年</li> <li>・ボランティア支援事業 通年(140人)</li> <li>・市町村体育・スポーツ協会全体研修会事業 1回(29市町村55名)</li> <li>・市町村体育・スポーツ協会ブロック研修会事業 通年</li> <li>・ニュースポーツ用具貸出事業 通年(67団体4,404人)</li> </ul>
21	レクリエーションフェスティバル	宮城県レクリエーション協会	県民の健康の維持増進や生きがいづくりのために生涯スポーツの一環としてニュースポーツに出会う「場」の提供と、さらに出会った種目を日常的・継続的に生活の一部とするように支援支援する。各種目団体の認知を目指し、また既にプレイヤーとして活動している方々には、「成果発表・交流の場」として位置づくりに図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり・コミュニケーションづくり・話題づくり」をコンセプトにし、みちのく湖畔公園の来場者に対し、ニュースポーツ体験コーナーを設置した。ディスクゲッター、バグジー、ラダーゲッターの3種目を15名の協会員で運営。老若男女問わず幅広い方に楽しみながら体を動かしていただけた。実参加者数で455人であった。</li> </ul>

施策の柱Ⅰ 生涯にわたるスポーツ活動の推進 ～高齢者のスポーツ～

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
1	明るい長寿社会づくり推進事業	長寿社会政策課	・明るく活力ある長寿社会の実現に向けて、高齢者のスポーツ活動、健康づくり活動を推進するとともに、「いきいきライフみやぎ」等の啓発情報誌を発行する。	4,642	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活・健康・社会活動参加等に関する情報誌を発行した。(10万部×4回)</li> </ul>

基本方向 1 健康づくり活動の推進

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
2	メタボリックシンドローム対策戦略事業(再掲)	健康推進課	第2次みやぎ21健康プランに基づき、メタボリックシンドロームの改善を図るため、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「たばこ」の3つを重点分野として、生活習慣の改善に向けた普及啓発等を行う。	1,331	・メタボ予防対策の推進 ・地域での関係機関の連携を図り、全ライフステージを対象としたメタボ予防の普及啓発を行う。(県内7保健所実施) ・保健指導等人材育成研修会の開催(年2回、延133人) ・ホームページ等による情報提供
3	スマートみやぎプロジェクト(再掲)	健康推進課	スマートみやぎ健民会議(県民運動)を基盤とし、県民に対して多方面からの効果的な情報伝達や市町村、民間企業等との協力により、日常的に健康づくりが実践できる社会環境の整備を行う。	12,039	・スマートみやぎ健民会議を核とした県民運動の推進(619団体、R2.3月末現在) ・企業等への健康経営の概念の普及(年2回(7月、2月)開催) ・みやぎヘルスサテライトステーション拡大事業 ・健康情報発信窓口等の設置(80施設、R2.3月末現在) ・子どもの健康なからだづくりの推進
4	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
5	老人クラブ活動育成事業(健康づくり支援事業費)	長寿社会政策課	・介護予防・健康づくりの一環として、市町村老人クラブ連合会が行う健康づくり事業を支援する。	1,396	・健康や介護予防をテーマとした講義及びストレッチ等の実技を行う研修を全7回開催し、560名が参加した。
6	みやぎシニアカレッジ運営事業 明るい長寿社会づくり推進事業	長寿社会政策課	・高齢者に生涯学習の場を提供し、生きがいと健康づくりを推進するとともに地域活動指導者の養成を行うため、みやぎシニアカレッジ(宮城いきいき学園)5校の運営を行う。 ・推進協力員を委嘱し、地域における高齢者の社会参加の促進と意識啓発を図る。	24,759	・宮城いきいき学園(県内5校、2学年計232名)での学習を通じて、生きがいと健康づくりを推進した。
7	高齢者のスポーツ	宮城県スポーツ協会	高齢者がより一層スポーツに取り組むことができるよう、高齢者を対象としたフィットネススクールやスポーツ大会を開催する。		・グランディ21卓球大会 1回(258人) ・各種スポーツ教室・フィットネス等開催事業 通年(74,175人) ・ミズノ体力向上事業 1回及び通年(783人) ・新春寒げい古 1回(50人) ・天空大河 通年(410人) ・中国気功教室 通年(414人) ・なぎなた教室 1回(64人)
8	地域スポーツ団体の支援(再掲)	宮城県スポーツ協会	市町村体育・スポーツ協会や県内の公共体育施設管理団体に対する情報提供や研修会等を行うほか、グランディ・21ボランティアへの支援等を行う。		・体育施設ネットワーク事業 通年 ・ボランティア支援事業 通年(140人) ・市町村体育・スポーツ協会全体研修会事業 1回(29市町村55名) ・市町村体育・スポーツ協会ブロック研修会事業 通年 ・ニュースポーツ用具貸出事業 通年(67団体4,404人)

## 基本方向 2 スポーツ活動機会の創出と交流の推進

9	明るい長寿社会づくり推進事業(再掲) ねんりんピック派遣事業	長寿社会政策課	・明るく活力ある長寿社会の実現に向けて、高齢者のスポーツ活動、健康づくり活動を推進するため、ねんりんピックに宮城県選手団を派遣するとともにその予選会を開催する。	5,743	・全国健康福祉祭(ねんりんピック)和歌山大会へ、選手及び役員122名を派遣した。
10	老人クラブ活動育成事業(県老人スポーツ大会事業費)	長寿社会政策課	・介護予防・健康づくりの一環として、市町村老人クラブ連合会が行う健康づくり事業を支援する。	95	・スポーツを通じた健康増進を図るため、宮城県シニアスポーツ大会を開催し、約700名が参加した。
11	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業(再掲)	スポーツ健康課	・県民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起する「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を7つの地区ごとに開催する。	1,933	・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。 ・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。
12	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ活動指導者研修会)(再掲)	スポーツ健康課	・地域におけるスポーツ活動の指導者を対象に、広く生涯スポーツの振興に必要な知識・技能及び具体的な施策展開方法等について研修する。	216	・地域におけるスポーツ活動指導者67名が参加した。タッチラグビーとボッチャの実技研修を中心に研修を深めた。
13	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ設立・育成業務) 総合型クラブ設立に向けた市町村や既存の総合型クラブ等に対し、指導・助言に当たる。	7,936	・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。 ・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。
14	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
15	体力・地域スポーツ力向上推進事業	スポーツ健康課	児童生徒の体力や地域スポーツ力向上に意欲のある市町村及びスポーツ関係団体を対象に、大学や民間企業と連携して課題解決に取り組む優れた事業提案をモデル事業として採択し、実施する。	5,167	・各市町において、大学や民間企業と連携した実践が積極的に行われ、体力向上や部活動指導の面において、成果が見られた。「体を動かす遊びやスポーツが好き」と回答する児童の割合の増加や体力・運動能力調査結果の向上が見られた。

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
16	オリンピック・パラリンピック推進事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツ振興、観光客の増加、インバウンドの拡大、県産品のPR等をもとより、震災からの復興状況を世界に発信するまたとない機会となることから、庁内各部署はもちろんのこと、官民一体となってオール宮城で関連施策に取り組むもの。	342,121	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖火リレーについては、実行委員会においてルートの検討をすすめ、復興五輪である本大会を体現するルートとして、津波被害を受けた施設や場所、震災の象徴的な場所を通過するルートを決定し公表した。また、令和元年7月から聖火ランナーを公募し、実行委員会において4つの選定方針のもと選定後、令和元年12月に公表した。</li> <li>・大会に向けた取組みとして、楽天イーグルスなどの在仙プロスポーツや大会スポンサー、競技団体と連携したイベントを実施したほか、動画、ポスターなどの制作、「県政だより」での特集記事の連載、仙台市中心部でPRフラッグを掲出するなど、気運醸成を図った。</li> <li>・ホストタウン及び復興「ありがとう」ホストタウンに関連し、事前キャンプ誘致に関するアドバイザーの派遣や、海外競技団体に対するPR活動などを実施した。</li> <li>・都市ボランティアについて、応募状況を踏まえ計画を見直し、多くが活動できる枠組みに変更した。また、共通研修の実施等、ボランティアの育成に着手するとともに約1700名を対象に活動場所などの配置を行った。</li> </ul>
17	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。
18	総合型地域スポーツクラブの育成・支援(再掲)	宮城県スポーツ協会	「総合型地域スポーツクラブ」の普及に向けた取り組みを支援するため、市町村体育・スポーツ協会が地域で大会、スポーツ教室、スポーツ研修会等を企画運営し、実施する事業に要する経費を助成する。また、県より、みやぎ広域スポーツセンターの運営委託業務を受託し、設立・運営の助言を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域スポーツ活動の普及推進事業を実施する16市町の体育・スポーツ協会に対し助成金を補助し、生涯スポーツ活動を推進した。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの設立及び運営に関する支援を、述べ29市町村98クラブに行った。</li> <li>・設立準備委員会を設置した名取市に対して設立準備補助金を交付した。</li> </ul>
19	スポーツ指導者の養成(再掲)	宮城県スポーツ協会	各種スポーツ指導者の指導力向上のため、日本スポーツ協会公認指導者の資格更新義務講習会等を開催する。また、幼児や障害者のスポーツ指導者の養成を行う講習会を開催する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認スポーツ指導者養成講習会事業(山岳) 1団体実施4名修了</li> <li>・スポーツ指導者研修会 6月・1月2回実施 計212名参加</li> <li>・スポーツ指導者協議会事業(東北・全国会議派遣、役員会実施)</li> </ul>
20	施設の利用促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	気軽に利用できる身近な施設としてPRIに努め、施設の利用促進を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設無料開放事業 1回(6,936人)</li> <li>・市町村対抗リレーマラソン大会 台風の影響により中止</li> <li>・みやぎ県民サッカーの日 1回(1,787人)</li> <li>・施設開放事業 1回 新型コロナウイルスの影響で中止</li> <li>・施設活用事業 通年(3,928人)</li> <li>・武道館まつり 1回(3,415人)</li> <li>・クライミングウォール講習会 1回 悪天候のため中止</li> </ul>
21	地域スポーツ団体の支援	宮城県スポーツ協会	市町村体育・スポーツ協会や県内の公共体育施設管理団体に対する情報提供や研修会等を行うほか、グランディ・21ボランティアへの支援等を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設ネットワーク事業 通年</li> <li>・ボランティア支援事業 通年(140人)</li> <li>・市町村体育・スポーツ協会全体研修会事業 1回(29市町村55名)</li> <li>・市町村体育・スポーツ協会ブロック研修会事業 通年</li> <li>・ニュースポーツ用具貸出事業 通年(67団体4,404人)</li> </ul>
22	レクリエーションフェスティバル(再掲)	宮城県レクリエーション協会	県民の健康の維持増進や生きがいづくりのために生涯スポーツの一環としてニュースポーツに出会う「場」の提供と、さらに出会った種目を日常的・継続的に生活の一部とするように支援する。各種目団体の認知を目指し、また既にプレイヤーとして活動している方々には、「成果発表・交流の場」として位置づくように図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり・コミュニケーションづくり・話題づくり」をコンセプトにし、みちのく湖畔公園の来場者に対し、ニュースポーツ体験コーナーを設置した。ディスクゲッター、バグジー、ラダーゲッターの3種目を15名の協会員で運営。老若男女問わず幅広い方に楽しみながら体を動かしていただけた。実参加者数で455人であった。</li> </ul>

## 施策の柱Ⅱ 競技力向上に向けたスポーツ活動の推進

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
--	-----	----------	------	-------------------	----------------

### 基本方向 1 国際的なスポーツ大会・国体等で活躍できる人材の育成

1	スポーツ選手強化対策事業	スポーツ健康課	・本県のスポーツ振興と競技力及びスポーツ水準の向上を図るため、競技力向上対策費、強化推進費等を(公財)宮城県スポーツ協会に補助を行う。	136,265	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人宮城県スポーツ協会を通じ、競技団体が実施する実践的な強化事業を支援する。</li> <li>・ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制の構築を目的とした事業を支援する。</li> </ul>
2	国民体育大会派遣事業費	スポーツ健康課	・広く国民にスポーツを普及し、健康増進と体力向上を図ること等を目的として開催される国民体育大会の参加経費及び県予選会の開催費等の補助を行う。	64,469	・国民体育大会の参加費補助、開会式出席旅費
3	障害スポーツ・レクリエーション事業(全国障害者スポーツ大会宮城県選手団派遣事業)	障害福祉課	障害者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的として開催される「全国障害者スポーツ大会」に宮城県選手団を派遣等する。	10,411	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県・仙台市障害者スポーツ大会(延べ981人参加)</li> <li>・全国障害者スポーツ大会宮城県選手団を派遣したが、台風19号の影響により全日程が中止となった。</li> </ul>

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
4	アスリートの強化促進	宮城県スポーツ協会	加盟競技団体が実施する競技力向上対策事業に要する経費について、補助金を交付する。 また、競技力向上を図る研修会等を開催する。		・競技団体及び高体連・中体連が実施する実践的な強化事業を支援するため、補助金を交付した。 ・ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制を構築するため、分析担当者の育成を目的とした事業を支援するため、17団体に補助金を交付した。 ・高いレベルの指導者を育成することを目的とした事業を支援するため、14団体に補助金を交付した。
5	ジュニアアスリートの発掘育成	宮城県スポーツ協会	地域で優れた素質を持つ選手を掘り起こし、セントラルトレーニングセンターでより一層の競技力向上を図るため、練習会や強化合宿等を実施し、将来的に有望な選手を育成する。		・17競技団体と連携し、全国の舞台で活躍するジュニア選手の選抜・強化を目的とした事業を実施した。
6	ジュニアスポーツパワーアップ事業	宮城県スポーツ協会	県内の小学生を対象に体力・運動能力に優れた児童を選抜し、トップアスリートになるために必要な知識・情報を習得させる。また、各種競技を体験する機会を設け、優れた適性を持つ児童を発掘する。		・本事業は、今年度より県の補助金で実施しており、5年生60人、6年生30人の計90人のアカデミー生が、トップアスリートとして必要な知識の基礎や身体能力を高める運動方法などの各種プログラムに取り組んだ。 ・本事業の修了生が、第74回国体で優勝(飛板飛込)・3位(ウエイトリフティング)、全日本プッシュスケルトン選手権大会で優勝、インターハイで2位・3位(ウエイトリフティング)、U15トライアスロン選手権大会で3位、北日本少年少女レスリング選手権大会で5・6年生の部で優勝するなど、活躍した。
7	国民体育大会強化指定制度	宮城県スポーツ協会	県有施設の利用を促し、かつ競技力の向上に資する。国民体育大会の上位入賞を目指し、強化指定選手の選定と県有施設の減免を活用し、競技団体の強化を図る		・加盟団体より推薦のあった10チーム、選手及び指導者合計88名を国民体育大会強化指定チーム・選手として承認した。

## 基本方向 2 競技活動を支える体制の整備

8	国民体育大会派遣事業(再掲)	スポーツ健康課	・広く国民にスポーツを普及し、健康増進と体力向上を図ること等を目的として開催される国民体育大会の参加経費及び県予選会の開催費等の補助を行う。	64,469	・国民体育大会の参加費補助、開会式出席旅費
9	東北総合体育大会派遣事業	スポーツ健康課	県スポーツ協会への活動費補助のうち、東北総合体育大会の参加経費を補助する。	20,449	・東北総合体育大会の参加費補助、開会式出席旅費
10	東京オリンピック・パラリンピック強化支援対策事業	スポーツ健康課	宮城県からメダル獲得選手を輩出すること及び多くのオリンピック・パラリンピアンを輩出することを目指し、活躍が期待される選手に対し、強化活動の支援を行う。	11,132	・「みやぎアスリート2020」指定選手へ強化活動費の補助(22名)
11	障害スポーツ・レクリエーション事業(全国障害者スポーツ大会競技種目の普及促進)	障害福祉課	宮城県障害者スポーツ振興推進員を設置することにより、障害者スポーツの普及・拡大並びに障害者スポーツ団体競技の参加人口の拡大等を図る。	12,294	・宮城県障害者スポーツ振興推進員を3名設置し、障害者スポーツ教室や指導員の養成講座を開催したほか、総合型地域スポーツクラブと連携して、障害者スポーツの普及・拡大を図った。
12	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	・プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。
13	アスリートの強化促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	加盟競技団体が実施する競技力向上対策事業に要する経費について、補助金を交付する。 また、競技力向上を図る研修会等を開催する。		・競技団体及び高体連・中体連が実施する実践的な強化事業を支援するため、補助金を交付した。 ・ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制を構築するため、分析担当者の育成を目的とした事業を支援するため、17団体に補助金を交付した。 ・高いレベルの指導者を育成することを目的とした事業を支援するため、14団体に補助金を交付した。
14	スポーツ指導者の養成(再掲)	宮城県スポーツ協会	各種スポーツ指導者の指導力向上のため、日本スポーツ協会公認指導者の資格更新義務講習会等を開催する。		・公認スポーツ指導者養成講習会事業(山岳) 1団体実施4名修了 ・スポーツ指導者研修会 6月・1月2回実施 計212名参加 ・スポーツ指導者協議会事業(東北・全国会議派遣、役員会実施)
15	国体・東北総体への選手団派遣	宮城県スポーツ協会	国体・東北総体に宮城県選手団を派遣する。		・東北総合体育大会事業 998名参加 ・国民体育大会事業 680名参加
16	スポーツ医科学との連携	宮城県スポーツ協会	国民体育大会出場選手・監督に対してドーピング防止研修会を開催		・国民体育大会参加選手・監督を対象としたアンチドーピング教育・啓発研修会を結団式に先立ち実施した。(200名参加)
17	スポーツ医科学との連携	宮城県スポーツ協会	国民体育大会にドクターを派遣し、選手の総合的なサポート体制を確立する。		・国民体育大会宮城県選手団帯同ドクターとして、日本スポーツ協会公認スポーツドクターを会期前1名、主会期2名、冬季大会1名の計4名派遣した。

事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
<b>施策の柱Ⅲ スポーツ活動を支えるための環境づくり</b>				
事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
<b>基本方向 1 地域のスポーツ環境の充実</b>				
1	体育団体等補助事業	スポーツ健康課	2,377	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県スポーツ推進委員協議会に対して、事業経費を補助した。</li> <li>・地域スポーツクラブ普及推進事業:15市区町村体協に対して事業経費を補助した。</li> <li>・ブロック研修会開催事業:7ブロック(8ブロック中)で研修会が開催され、経費を補助した。</li> <li>・全体研修会開催事業:1回実施され、開催に係る経費を補助した。</li> </ul>
2	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業(再掲)	スポーツ健康課	1,933	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。</li> <li>・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。</li> </ul>
3	体力・地域スポーツ力向上推進事業	スポーツ健康課	5,167	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町において、大学や民間企業と連携した実践が積極的に行われ、体力向上や部活動指導の面において、成果が見られた。「体を動かす遊びやスポーツが好き」と回答する児童の割合の増加や体力・運動能力調査結果の向上が見られた。</li> </ul>
<b>基本方向 2 広域スポーツセンターの機能充実</b>				
4	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	7,936	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。</li> <li>・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。</li> </ul>
5	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業(再掲)	スポーツ健康課	1,933	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。</li> <li>・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。</li> </ul>
6	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ活動指導者研修会)(再掲)	スポーツ健康課	216	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域におけるスポーツ活動の指導者を対象に、広く生涯スポーツの振興に必要な知識・技能及び具体的な施策展開方法等について研修する。</li> </ul>
7	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツ担当者会を2回開催した。</li> <li>・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。</li> </ul>
<b>基本方向 3 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援</b>				
8	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	7,936	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。</li> <li>・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。</li> </ul>
9	総合型地域スポーツクラブの育成・支援(再掲)	宮城県スポーツ協会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域スポーツ活動の普及推進事業を実施する16市町の体育・スポーツ協会に対し助成金を補助し、生涯スポーツ活動を推進した。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの設立及び運営に関する支援を、述べ29市町村98クラブに行った。</li> <li>・設立準備委員会を設置した名取市に対して設立準備補助金を交付した。</li> </ul>
10	総合型クラブマネジメント研修事業	宮城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6/15(土)ヒューマンエラー防止研修会</li> <li>・11/23(土)24(日)東北ブロッククラブネットワークアクション2019(主管)</li> <li>・2/12(水)リスクマネジメント研修会</li> </ul>
<b>基本方向 4 指導者の育成と連携</b>				
11	体育団体等補助事業(再掲)	スポーツ健康課	2,377	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県スポーツ推進委員協議会に対して、事業経費を補助した。</li> <li>・地域スポーツクラブ普及推進事業:15市区町村体協に対して事業経費を補助した。</li> <li>・ブロック研修会開催事業:7ブロック(8ブロック中)で研修会が開催され、経費を補助した。</li> <li>・全体研修会開催事業:1回実施され、開催に係る経費を補助した。</li> </ul>

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
12	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ普及・啓発業務) ・総合型クラブに関連する情報について、広域スポーツセンターホームページや広報等を活用して、情報提供する。 (総合型クラブ指導者育成業務) ・総合型クラブスタッフの資質向上を図るための研修会を開催する。 ・アシスタントマネージャー育成を目的とした研修会を開催する。 ・クラブスタッフの資質向上を目的とした研修会を開催する。	7,936	・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。 ・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。
13	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
14	みやぎシニアカレッジ運営事業(再掲)	長寿社会政策課	・高齢者に生涯学習の場を提供し、生きがいと健康づくりを推進するとともに地域活動指導者の養成を行うため、みやぎシニアカレッジ(宮城いきいき学園)5校の運営を行う。	24,292	・宮城いきいき学園(県内5校、2学年計232名)の運営を通して、地域社会の発展に寄与できる高齢者の地域リーダーとなる人材の育成を行った。
15	運動部活動地域連携促進事業(再掲)	スポーツ健康課	・地域の優れたスポーツ経験者やスポーツ指導者等を「外部指導者」として活用することにより、運動部活動の充実と地域との連携を促進する。 ・外部指導者を対象にスポーツ指導者としての資質向上のための研修会を開催する。	9,565	・外部指導者171人を派遣し、地域との連携を深め、運動部活動の充実を図った。 ・スポーツ指導者研修会では、情報交換を行い、指導者としての実践力を高めるとともに、指導者間のネットワークづくりをした。
16	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	・プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。
17	障害スポーツ・レクリエーション事業	障害福祉課	障害者スポーツのより一層の普及・振興を図るため、障害者スポーツに関する知識・技術等を有する障害者スポーツ指導員を養成する研修等を実施する。	424	・障害者スポーツ指導員養成研修(初級24名が受講、修了) ・障害者スポーツ指導員研修(5回 47名が受講) ・障害者スポーツ指導員研修会派遣(3名)
18	スポーツ指導者の養成(再掲)	宮城県スポーツ協会	各種スポーツ指導者の指導力向上のため、日本スポーツ協会公認指導者の資格更新義務講習会等を開催する。		・公認スポーツ指導者養成講習会事業(山岳) 1団体実施4名修了 ・スポーツ指導者研修会 6月・1月2回実施 計212名参加 ・スポーツ指導者協議会事業(東北・全国会議派遣、役員会実施)
19	アスリートの強化促進(再掲)	宮城県スポーツ協会	加盟競技団体が実施する競技力向上対策事業に要する経費について、補助金を交付する。 また、競技力向上を図る研修会等を開催する。		・競技団体及び高体連・中体連が実施する実践的な強化事業を支援するため、補助金を交付した。 ・ジュニア期からシニア期までの一貫した強化体制を構築するため、分析担当者の育成を目的とした事業を支援するため、17団体に補助金を交付した。 ・高いレベルの指導者を育成することを目的とした事業を支援するため、14団体に補助金を交付した。
20	スポーツ少年団指導者認定員 養成講習会	宮城県スポーツ協会	指導者の資質向上に係る研修会の開催		・県内7会場においてスポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員の養成講習会を実施し、合計580名を新規に認定した。 ・指導者研修会を2会場で開催し、126名の参加があった。 ※次年度 事業形態変更
21	運動適性テストの活用	宮城県スポーツ協会	・運動適性テストのデータの蓄積と分析 ・運動適性テストの結果に基づく個に応じた指導を行うための研修		・県内7会場においてスポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員の養成講習会を実施し、合計580名を新規に認定した。 ※次年度 事業形態変更
22	指導者の研修促進事業	宮城県スポーツ協会	・幅広いスポーツの要素をバランスよく取り入れた活動を計画・実施するための研修 ・発育・発達に応じた活動を計画・実施するための研修		・県内7会場においてスポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員の養成講習会を実施し、合計580名を新規に認定した。 ・指導者研修会を2会場で開催し、126名の参加があった。 ※次年度 事業形態変更
23	指導者の指導体制の拡充	宮城県スポーツ協会	・より多くの子供達に安全で効果的な指導を行うために、指導者のスポーツリーダー資格取得の促進を行う ・1つの団体に複数のスポーツリーダー等の有資格者を配置する		・スポーツ少年団認定員養成講習会を県内6会場で開催するとともに、団として認定員を2名以上登録することを推進し、ほぼ100%配置された。 ※次年度 事業形態変更 ・県内8地区において指導者研修会が開催され、合計357名の参加があった。
24	宮城県スポーツ推進委員研究大会 宮城県スポーツ推進委員女性研修会 宮城県スポーツ推進委員地区研修会(県補助事業)	宮城県スポーツ推進委員協議会	スポーツ推進委員の資質を目的とした研修会の開催や、東北・全国の研修会への参加を支援する。		・宮城県スポーツ推進委員研究大会(栗原大会)台風19号で中止 ・宮城県スポーツ推進委員女性研修会(石巻市) 126名参加 ・宮城県スポーツ推進委員地区研修会 各地区1回×8カ所
25	みやぎ遊学実践塾	宮城県レクリエーション協会	レクリエーションインストラクター養成		・レクリエーション・インストラクターとして9名が新規登録された。 ※次年度の方向性を廃止としたのは、R2年度はコロナにより中止したため、R3年度は継続実施になります。

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
26	みやぎ遊学特選塾(フォローアップ研修会)	宮城県レクリエーション協会	レクリエーションインストラクター資格取得者を対象にスキルアップを図る研修会		・資格取得者47名が参加。午前の部では、新種目の習得と実技を行った。午後の部ではユニカールのルールを再確認した。 ※R2年度はフォローアップ研修会とチャレンジ・ザ・ゲーム普及講習会を兼ねて実施予定のため、次年度の方向性を統合しました。
27	チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員講習会	宮城県レクリエーション協会	チャレンジ・ザ・ゲームの各種目を用いて、学校や職場、地域で楽しくスポーツレクリエーションの指導ができる指導者の養成		みやぎ遊学特選塾内の午前の部で実施した。新種目の習得と実技を行った。各指導者から早速実施したいとの声が多数であった。
28	総合型クラブマネジメント研修事業(再掲)	宮城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	クラブマネジメントに必要な経理処理や労務管理、また地域スポーツ振興事業、スタッフ育成など多岐にわたる知識や情報提供の機会として、有識者を講師に招き、研修会を開催する。また、特徴的なクラブや先進的な取り組みを行うモデル地域などへの視察も実施する。		・6/15(土)ヒューマンエラー防止研修会 ・11/23(土)24(日)東北ブロッククラブネットワークアクション2019(主管) ・2/12(水)リスクマネジメント研修会
29	障害者スポーツ指導員養成講習会 障害者スポーツ指導員実技研修会 障害者スポーツ指導員研修会派遣事業(県補助事業)	宮城県障害者スポーツ協会	障害者スポーツのより一層の普及・振興を図るため、障害者スポーツに関する知識・技術等を有する障害者スポーツ指導員、スポーツコーチを養成する研修等を実施する。		・初級障がい者スポーツ指導者養成講習会(年1回) 24名受講 ・指導者研修会の開催(5回)延べ47名参加 ・ポッチャサポーター養成研修会派遣(1回) 3名派遣 ・ポッチャ審判員養成講習会派遣(1回)2名派遣

### 基本方向 5 スポーツボランティアの育成と支援

30	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。		・生涯スポーツ担当者会を2回開催した。 0 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
31	障害者スポーツ・レクリエーション事業(障害者スポーツボランティアネットワーク事業)	障害福祉課	障害者スポーツ大会等の開催に必要なボランティアを養成等するため、障害者スポーツの基礎知識等を習得する講習会を実施する。	203	・ボランティア要請研修会(9回 333名) ・リーダー養成研修(2回 55名) ・ボランティア派遣(8回 延べ35名)
32	地域スポーツ団体の支援(再掲)	宮城県スポーツ協会	市町村体育・スポーツ協会や県内の公共体育施設管理団体に対する情報提供や研修会等を行うほか、グランディ・21ボランティアへの支援等を行う。		・体育施設ネットワーク事業 通年 ・ボランティア支援事業 通年(140人) ・市町村体育・スポーツ協会全体研修会事業 1回(29市町村55名) ・市町村体育・スポーツ協会ブロック研修会事業 通年 ・ニュースポーツ用具貸出事業 通年(67団体4,404人)
33	障害者スポーツボランティア講習会(障害者スポーツボランティアネットワーク事業)(県補助事業)	宮城県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ大会等の開催に必要なボランティアを養成等するため、障害者スポーツの基礎知識等を習得する講習会を実施する。		・ボランティア養成講習会 11回実施 延べ388名受講 ・ボランティア派遣事業 8回実施 延べ35名派遣

### 基本方向 6 表彰制度の拡充

34	スポーツ奨励事業	スポーツ健康課	・本県のスポーツに多大なる貢献を果たした個人及び団体を顕彰する「宮城県スポーツ賞」の表彰を行う。	766	・本県のスポーツに多大なる貢献を果たした個人及び団体を顕彰する「宮城県スポーツ賞」を、県スポ協、県高体連、及び中体連と合同で開催し、県では特別功績賞13名・1団体、功績賞52名・15団体を表彰した。
35	宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭開催事業(再掲)	スポーツ健康課	・県民一人ひとりのスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起する「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭」を7つの地区ごとに開催する。	1,933	・地区毎に地域の特色を生かした種目・イベントを開催した。 ・令和元年度の各地区大会参加者数は5,876名で、予選会を含めると延べ23,481名の県民が参加した。
36	スポーツ活動奨励事業	宮城県スポーツ協会	表彰規定に基づき、事業発展・スポーツ向上に功労並びに功績があった個人・団体及び国民体育大会で入賞した個人・団体を表彰する。		・宮城県・高体連・中体連と合同で表彰式を開催し、スポーツに功労・功績のあった個人75名、29団体に表彰を行った。
37	表彰事業	宮城県高等学校体育連盟	本県高校スポーツ界の向上に功績があった生徒(個人・団体)や高体連発展のために功労のあった教職員その他に対し、特別表彰・功績賞・優秀監督賞・功労賞・感謝状を授与する。		・特別表彰など、各賞合わせて136名(前年比-23名)に対して表彰を行った。本県高校スポーツの実績を広く周知することができた。
38	表彰事業	宮城県中学校体育連盟	本県中学校スポーツ界の向上に功績があった生徒(個人・団体)や中体連運営と発展に特に功績のあった個人あるいは団体に対し、功績賞・功労賞を授与する。		・全国大会3位以内入賞者、東北大会優勝者、県中総体3年連続優勝者、中体連の運営・発展に寄与した指導者等への表彰を行った。県内中学校体育関係者に希望と感動を与えられる表彰式となった。
39	宮城県スポーツ少年団表彰式	宮城県スポーツ協会(宮城県スポーツ少年団)	表彰規定に基づき、スポーツ少年団の発展向上に貢献した単位スポーツ少年団や指導・育成に貢献した指導者に功績賞・功労賞を授与する。		宮城県スポーツ少年団として表彰式を行い、功績賞・功労賞合わせて26団体、84名を表彰した。また、日本スポーツ少年団顕彰として3団体、4名が表彰され、4名に感謝状が贈られた。

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
<b>基本方向 7 スポーツを支える組織の強化</b>					
40	部活動の在り方検討会議【再掲】	スポーツ健康課	本県の部活動に関する様々な課題と目指すべき姿を検討するため、教育関係者及びスポーツ関係者を構成員とした検討会議を開催する。	6	・部活動の在り方検討会議「ワーキンググループ」を12/24に開催。 ・部活動の在り方検討会議を2/4に開催した。運動部、文化部それぞれの課題について情報共有し、部活動ガイドラインを遵守することの大切さを再確認した。
41	スポーツ医科学との連携(再掲)	宮城県スポーツ協会	国民体育大会出場選手・監督に対してドーピング防止研修会を開催		・国民体育大会参加選手・監督を対象としたアンチドーピング教育・啓発研修会を結団式に先立ち実施した。(200名参加)
42	地域スポーツ団体の支援(再掲)	宮城県スポーツ協会	市町村体育・スポーツ協会や県内の公共体育施設管理団体に対する情報提供や研修会等を行うほか、グランディ・21ボランティアへの支援等を行う。		・体育施設ネットワーク事業 通年 ・ボランティア支援事業 通年(140人) ・市町村体育・スポーツ協会全体研修会事業 1回(29市町村55名) ・市町村体育・スポーツ協会ブロック研修会事業 通年 ・ニュースポーツ用具貸出事業 通年(67団体4,404人)
<b>基本方向 8 スポーツ安全に関する情報分析・研究及び成果の活用</b>					
43	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ普及・啓発業務) ・総合型クラブに関連する情報について、広域スポーツセンターホームページや広報等を活用して、情報提供する。 (総合型クラブ設立・育成業務) ・市町村やクラブ等を訪問するなどして、設立・育成のための指導・助言を行う。	7,936	・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。 ・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。
44	スポーツ医科学との連携(再掲)	宮城県スポーツ協会	国民体育大会出場選手・監督に対してドーピング防止研修会を開催		・国民体育大会参加選手・監督を対象としたアンチドーピング教育・啓発研修会を結団式に先立ち実施した。(200名参加)
45	部活動における事故防止啓発事業	宮城県中学校体育連盟	県評議員会・本連盟Webサイトにおいて、事故防止を促す啓発活動を行う。		・部活指導における留意点等を記載した啓発冊子「安全に部活動を行うために」をHPに掲載し、各競技種目の特性や練習内容、安全確保のポイント等を周知した。また、熱中症事故防止の対策等についてもHPで広報活動を行った。
<b>基本方向 9 スポーツ観光の推進とスポーツ大会の誘致</b>					
46	全日本実業団女子駅伝競走大会開催支援事業	オリンピック・パラリンピック大会推進課	全日本実業団対抗女子駅伝の大会開催を支援する。	4,876	・全日本実業団対抗女子駅伝競走大会の開催を通じて本県の生涯スポーツの普及・振興を図るため、大会を運営する一般財団法人宮城陸上競技協会に対して経費を補助するとともに、関係機関との調整等各種支援を実施した。
47	広域スポーツセンター事業(生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者会を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
48	大規模大会誘致支援事業(非予算的手法)	スポーツ健康課	大規模大会を誘致するために広報活動等を支援する。	0	・関係各位と情報交換を行った。
49	オリンピック・パラリンピック推進事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、スポーツ振興、観光客の増加、インバウンドの拡大、県産品のPR等もとより、震災からの復興状況を世界に発信するまたとない機会となることから、庁内各部署はもちろんのこと、官民一体となってオール宮城で関連施策に取り組むもの。	342,121	・聖火リレーについては、実行委員会においてルートの検討をすすめ、復興五輪である本大会を体現するルートとして、津波被害を受けた施設や場所、震災の象徴的な場所を通過するルートを決定し公表した。また、令和元年7月から聖火ランナーを公募し、実行委員会において4つの選定方針のもと選定後、令和元年12月に公表した。 ・大会に向けた取組みとして、楽天イーグルスなどの在仙プロスポーツや大会スポンサー、競技団体と連携したイベントを実施したほか、動画、ポスターなどの制作、「県政だより」での特集記事の連載、仙台市中心部でPRフラッグを掲出するなど、気運醸成を図った。 ・ホストタウン及び復興「ありがとう」ホストタウンに関連し、事前キャンプ誘致に関するアドバイザーの派遣や、海外競技団体に対するPR活動などを実施した。 ・都市ボランティアについて、応募状況を踏まえ計画を見直し、多くが活動できる枠組みに変更した。また、共通研修の実施等、ボランティアの育成に着手するとともに約1700名を対象に活動場所などの配置を行った。
50	教育旅行誘致促進事業	観光課	教育旅行で本県を訪れていただく事は将来的なリピーターとなる可能性があり、長期的な交流人口を確保するため、北海道及び中部以西の学校関係者の招請事業や教育旅行セミナーへの参加、現地旅行会社や学校関係者訪問によるPRの実施等を実施し、教育旅行の誘致を図るもの。	3,734	・11月27日に札幌、28日に函館において、学校教員及び旅行会社を対象に誘致説明会を開催した。(全体で15校13社参加) 北海道、首都圏、関西等において教育旅行関係団体等(21団体)へのキャラバンを実施した。 ・北海道エリアと中部以西エリアにおける学校教員16名を対象にモニターツアーを実施した。
51	各種観光展等参画事業(スキー場冬季誘客共同宣伝事業)	観光課	首都圏及び県外事務所所在県等で開催される各種観光展において、本県の観光資源を紹介宣伝し、観光客の誘致促進を図るもの。 「冬季共同宣伝事業」については、県内のスキー場関係者と連携し、冬期間だけではなくスキー場への誘客促進を図るもの。	342	県内のスキー場関係者及び宮城県観光連盟と連携し、スキーレンタル用品又はスクール割引券等が当たるプレゼントキャンペーンを実施しスキー場の利用促進を図った。 ・スキーレンタル用品・スクール割引券 300名 ・ラプラスグッズ 10名 ・ペア宿泊券 44組 ・宿泊割引クーポン 70名

	事業名	担当課室・団体等	事業概要	R1 決算額 (千円)	令和元年度の実施状況及び成果
52	指導者を対象とした国際交流事業 日中青少年交流事業	宮城県スポーツ協会	・ドイツや中国への派遣事業を通して、海外のスポーツ文化について学ぶ ・ドイツや中国への派遣事業を通して、海外の子どもたちのスポーツ事情について学ぶ		・7/31～8/17ドイツを訪問する交流団のメンバーとして2名を派遣した。
53	団員を対象とした国際交流事業(再掲)	宮城県スポーツ協会	・ドイツや中国への派遣事業を通して国際的な視野を持った青少年を育成する ・ドイツや中国の青少年とスポーツ活動を中心とした交流を通して、海外のスポーツ事情について学ぶ ・ドイツや中国でのディスカッションやホームステイを通して海外の文化について学ぶ ・ドイツ団や中国団の受け入れを通して海外のスポーツ事情や文化について学ぶ		・7/23～8/8の日程で、指導者1名メンバー8名、合計9名のドイツの青少年を大崎地区を中心として受け入れ。涌谷町での砂金取りや小牛田農林高校での相撲体験などを行い、宮城のスポーツ・文化を紹介するとともに団員との交流を行った。

### 基本方向 10 身近なスポーツ施設の充実

54	総合運動公園等施設整備費	スポーツ健康課	・総合運動公園等の施設整備を行う。	382,127	・老朽化している県有体育施設の機能維持対策等として、総合運動公園の芝の張替やハードル等の備品整備を行った。
55	スポーツ施設指定管理者事業費	スポーツ健康課	・県有スポーツ施設の管理運営業務を効率的かつ効果的に実施するため、引き続き、民間活力を導入する。	740,906	・各県有スポーツ施設の効果的活用と円滑な業務の遂行を図るため、指定管理制度により管理委託を行った。
56	スポーツ施設等維持管理委託事業	スポーツ健康課	・指定管理制度を導入している施設以外の県有スポーツ施設等の維持・管理の委託を行う。	2,204	・円滑なカヌー競技開催のため、鳴瀬川カヌーレーシングコースの設置及び撤去を行った。
57	宮城県自転車競技場施設整備費	スポーツ健康課	・自転車競技の普及及び発展を図るため、(公財)宮城県スポーツ協会が行う宮城県自転車競技場管理運営に要する経費に対して補助を行う。	14,941	・(公財)宮城県スポーツ協会が行う宮城県自転車競技場運営管理費補助事業に要する経費について、円滑な施設運営のための補助を行った。
58	体育施設整備事業	スポーツ健康課	・県有体育施設の公認競技施設としての更新手続き等を行う。	275,130	・宮城スタジアムの公認認定を受けるため事前審査及び検定受検を行った。
59	障害者総合体育センター費	障害福祉課	障害者のスポーツの振興及び普及を図り、障害者の心身の健全な発達及び社会参加の促進に資するために設置した「宮城県障害者総合体育センター」について、指定管理者制度を導入	28,556	・利用者本位の円滑な施設管理運営により、県民サービスの向上と管理経費の節減が図られた。
60	温水プール運営費補助	障害福祉課	障害者の体育振興を通じ、勤労、社会参加への意欲を高めるため、温水プールの運営に対し補助する。	17,000	・水中スポーツ教室の開催等により、障害者と地域住民の交流促進及び障害者スポーツの啓発を図った。
61	広域スポーツセンター事業 (生涯スポーツ担当者会議)(再掲)	スポーツ健康課	本県の生涯スポーツを振興していくうえで効果的・効率的な事業の推進策や新たな方向性について検討する。	0	・生涯スポーツ担当者を2回開催した。 ・各地区の生涯スポーツ振興の方向性やヘルシースポーツ祭の拡充に向けた意見交換を行った。
62	みやぎ観光戦略受入基盤整備事業	観光課	登山を通して自然を楽しみ、かつ安全な登山を楽しむために訪れる人々のため、登山道等の自然公園施設の再整備等を行うもの。	1,590	・測量設計 一式
63	公のスポーツ施設に係る管理運営事業	宮城県スポーツ協会	施設の設置目的に合わせて利用者のニーズ把握等を行い、一層のサービス向上・利便性向上・施設利用者数の拡大を図るとともに、安全・安心を最優先とした施設の管理・運営を行う。		・施設管理運営事業 通年
64	宮城県自転車競技場管理運営事業	宮城県スポーツ協会	宮城県自転車競技場の管理運営及び施設の貸与事業を行う。		・施設管理運営事業 通年

### 基本方向 11 プロスポーツや企業・大学と地域スポーツの好循環

65	全日本実業団女子駅伝競走大会開催支援事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	全日本実業団対抗女子駅伝の大会開催を支援する。	4,876	・全日本実業団対抗女子駅伝競走大会の開催を通じて本県の生涯スポーツの普及・振興を図るため、大会を運営する一般財団法人宮城陸上競技協会に対して経費を補助するとともに、関係機関との調整等各種支援を実施した。
66	広域スポーツセンター事業(再掲)	スポーツ健康課	(総合型クラブ設立・育成業務) ・市町村及びクラブの課題整理を行い、総合型クラブ設立及び育成に向けた支援を行う。	7,936	・令和元年度末現在、24の市町で53のクラブが活動を展開している。 ・スポーツクラブが未設置である11市町村のうち、山元町、南三陸町、蔵王町で設立に向けた動きがあり、引き続き支援していく必要がある。
67	ベガルタ仙台ホームタウン協議会事業 楽天イーグルス・マイチーム協議会事業 仙台89ERSホームタウン協議会事業 仙台プロスポーツネット事業(再掲)	オリンピック・パラリンピック大会推進課	プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を行う。	5,200	・プロスポーツチームの地域への定着を支援するため、各スポーツそれぞれの地域支援組織への参画を通じ、側面支援を実施した。
68	プロスポーツ連携事業(再掲)	宮城県スポーツ協会	県民が競技の楽しさをより深く体験することができるよう、プロスポーツ団体と連携し、プロスポーツ選手によるスポーツ教室を開催する。		・仙台89ersバスケットボール教室 1回(82人) ・リガーレ仙台バレーボール教室 1回(58人)